



タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3452		
科目名	防衛法制		
担当教員	吉田 正法		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 4		
講義室	1308	単位区分	選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・法学		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 3－H 〔論理的思考力・批判的思考力〕理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 D P 4－I 〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門技能（40％） H 1 論理的思考力（30％） I 1 理解・分析と読解（30％）		
教員の実務経験	行政官として防衛法制の運用に携わった経験を踏まえ、日本国憲法の枠内で現実世界の所要を満たす新たな法制上の制度設計が生み出されたイノベーション等について説明します。（第1回～第15回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	日本の防衛制度について理解するために、自衛隊法を中心に防衛法制の基礎を学び、自衛隊などの日本の防衛を担う組織の構成、任務について学びます。自衛隊法の他に、防衛省設置法や国民保護法、P K O協力法、国際緊急援助隊の派遣に関する法律、海賊対処法、重要影響事態法、国家安全保障会議設置法など、国内外における自衛隊の活動に関する防衛法制全般について理解を深めることを目標とします。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 防衛、自衛隊、日米安保体制		
授業の趣旨	■副題 第二次世界大戦後の国内外環境の変化に対応した防衛法制の発展の道筋と概要を学びます。 ■授業の目的 日本の防衛法制について、関連する法律の概要、その制定・改正の社会的背景と運用状況に関する基礎的な専門知識を学習します。 ■授業のポイント 冷戦の勃発や終焉に伴う国際環境の変化に対して、我が国の平和と安全を全うするために日本国憲法の下で防衛法制がどのような展開を遂げてきたのかという観点から、防衛法制の地平を拡大してきた法制上のイノベーションの生成と普及を体系的に分析し、防衛法制の分野で行われてきた法的な問題解決の経緯を説明できる能力を身に付けることを目的とします。このよ		

	うな学習を行うことは、皆さんが将来直面することになる未知の課題への対応をデザインする際に有益なヒントをもたらすことでしょう。 条文に基づく法解釈学だけでなく法社会学、法制史、法制執務（立法・法改正）という基礎法学も取り扱う応用法学となります。毎回の講義は膨大なデータからそのポイントを取り出す訓練となりますので、法学の学習に自信のない学生諸子は憲法、行政法や国際法等を履修した後に履修すること一案です。	
総合到達目標	■ 防衛法制に関する理論知と実践知を獲得して運用する能力を高めるために、法令というジャンルの条文というスタイルのテキストの読解や解釈等の技能を修得し、社会環境の変化を踏まえて発展を遂げた防衛法の概念、制度と体系に関する知識を理解する。その上で、事案の分析を踏まえて適用法令（新規立法を含む）を選択して適用するというアプローチにより安全保障・防衛上の課題の解決を図る態度を涵養する。 ・ 防衛法制を取り巻く国際法や憲法の大枠を説明できる。（第2回） ・ 防衛法制上の中心的な概念を説明し、条文に則して制度を再構成できる。（第2回、第4回～第14回） ・ 日本を取り巻く安全保障環境の変化と防衛法制の発展の関係を説明できる。（第3回～第15回） ・ 防衛法制の諸制度を貫く体系とイノベーションの道筋を説明できる。（第3回～第15回）	
成績評価方法	■ ミニ・テスト15回（40％）：適用ルーブリック E1・H1・I1 （評価の観点）当該単元でポイントとなる知識や概念の理解度を測定します。 （フィードバックの方法）オンラインでの回答の添削を返信します。次の授業の開始時に、解答例の解説を行います。 ■ レポート2回（25％×2）：適用ルーブリック E1・H1・I1 （評価の観点）自主創造の3つの構成要素（自ら学ぶ・自ら考える・自ら道をひらく）と日本大学マインド（日本の特性を理解し伝える力、多様な価値を受容し自己の立場・役割を認識する力、社会に貢献する姿勢）を組み合わせせた思考コードを踏まえて、知識・応用・創造の力を測定するレポートを課します。 （フィードバックの方法）第15回授業において、解答例の解説を行います。 ■ 授業参加度（10％）：適用ルーブリック E1・H1・I1 （評価の観点）質問・意見の交換など授業構築への参加度を評価します。 （フィードバックの方法）授業の場でフィードバックします。	
履修条件	第二次世界大戦後の日本の安保・防衛の歩みと今後を防衛法制という観点から学んでみることに興味を抱き、毎回の授業の予習として防衛法制を題材とする大量の資料を読みこなすことのできる意思と能力を備え、あらかじめ定まった解のないレポート課題にも果敢に挑戦する意欲を持ち、意見の異なる者とも協働して互いを高める柔軟性と寛容性を有し、講義への主体的な参加を通じて自分を成長させたいという強い意志を持っている学生の参加を歓迎します。	
履修上の注意点	ポータルサイト等を通じて授業に関する資料の事前・事後配布や連絡を行うので、毎週必ずポータルサイト等を確認してください。教員から個別の連絡を受けた場合には必ず応答の連絡をしてください。	
授業内容	回	内容
	1	① 授業テーマ ガイダンス、軍事法を学ぶ ② 授業概要 （ガイダンス）授業のテーマ・内容・スケジュール・評価方法を確認する。 （軍事法を学ぶ）防衛法制を含む軍事法について学終し、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③ 予習（120分） シラバスの内容を精査する。シラバスの内容を踏まえて、この講義の受講を通じて達成すべき自分なりの成果の目標（例：15回の授業終了後に、この科目に関して他者からも認められるようありたいと思う自分の姿）を設定して書き出す。この目標を達成するための方策（例：シラバスに書かれている予習と復習を必ずやり遂げる）、予想される困難とこれを克服する方策（例：よく判らなかった部分を放置せずに友人と相談する、オフィスアワーの時間を利用して教員に質問する）を考える。学習の記録をつける。 ④ 復習（120分） ポートフォリオ作成用のファイルを準備し、予習用資料・講義スライド・ノート・小テストの回答と講評等を蓄積していく。自分の生活リズムの中で予習×授業×復習の時間を確保する学習計画（日課表）を作成して、学習のPDCA（Plan-Do-Check-Action）を始動する。学習の記録をつける。
	2	① 授業テーマ 憲法と自衛隊

	②授業概要 主権国家である日本国が持つ主権とは何かを国際法の観点から学習する。主権の一つである自衛権について憲法がどのように規定し自衛隊を創設したのか、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読むとともに「立憲主義と統治」や「国際法」の関連講義を振り返り、戦争に関する国際法と憲法の規律について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。参考書や防衛白書の「憲法と防衛政策の基本」を読み、国際法の戦争に関する規律の変遷や憲法第9条の理念について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
3	①授業テーマ 核抑止論と核拡散、NPT体制の将来 ②授業概要 核兵器に関する議論を行うための前提となる法的枠組みなどについて学習し、NPT体制の将来について考え、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、第二次世界大戦後の安保・防衛の流れを考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。核に関する議論について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
4	①授業テーマ 北朝鮮の核・ミサイル開発への対応 ②授業概要 北朝鮮の弾道ミサイルの脅威へ対応するための現在の法的枠組みについて学習し、自衛隊をどのように活用できるか、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、弾道ミサイル等破壊措置について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。いわゆる敵基地攻撃論について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
5	①授業テーマ イラン核疑惑とペルシャ湾からの石油・天然ガス輸入の安全確保 ②授業概要 ペルシャ湾周辺での危機に対応する法的枠組みを学習し、自衛隊をどのように活用できるか、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、自衛隊の活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。どのような法的根拠を用いて自衛隊を活用できるか、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
6	①授業テーマ 尖閣諸島をめぐる問題とグレーゾーン事態への対応 ②授業概要 尖閣諸島で起こり得る危機に対応するための法的枠組みを学習し、自衛隊をどのように活用できるか、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、自衛隊の活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。どのような法的根拠を用いて自衛隊を活用できるか、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。

7	①授業テーマ 大規模災害時の危機管理における自衛隊の活用 ②授業概要 大規模災害時に自衛隊を活用するための法的枠組みを学習し、自衛隊をどのように活用できるか、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、大規模災害時における自衛隊の活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。どのような法的根拠を用いて自衛隊を活用できるか、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
8	①授業テーマ 感染症対応における自衛隊の活用 ②授業概要 様々な感染症対応に自衛隊を活用するための法的枠組みを学習し、自衛隊をどのように活用できるか、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、感染症対応における自衛隊の活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。どのような法的根拠を用いて自衛隊を活用できるか、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
9	①授業テーマ さまざまな場面での自衛隊の活用 ②授業概要 オリンピック支援、不発弾除去など、どのような場面で自衛隊を活用することができるのか、法的枠組みを学習し、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、感染症対応における自衛隊の活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。どのような法的根拠を用いて自衛隊を活用できるか、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
10	①授業テーマ 国内や国外でのテロ事案への対応 ②授業概要 国内や国外でのテロ事案へ自衛隊を活用するための法的枠組みを学習し、自衛隊をどのように活用できるか、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、国内や国外でのテロ事案における自衛隊の活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。どのような法的根拠を用いて自衛隊を活用できるか、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
11	①授業テーマ 地域の安定、国際安全保障環境改善のための活動への対応 ②授業概要 PKO等国際平和支援活動など、自衛隊が海外で行う活動のための法的枠組みを学習し、自衛隊をどのように活用できるか、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、防衛施設が地元及ぼす影響と対策について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講

		評を参照して単元を振り返る。防衛白書を閲覧して「地域コミュニティとの連携」の説明を読むとともに、米軍基地所在自治体の基地対策関連HPを閲覧し、在日米軍の駐留や防衛施設の存在に伴い生ずる課題と解決策について考え、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
	12	①授業テーマ 在日米軍等駐留に起因する諸問題への対応 ②授業概要 在日米軍基地問題に関する議論を行うための前提となる法的枠組みを学習し、駐留に起因する諸問題へどのように対応するか、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、在日米軍駐留に起因する諸問題について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。在日米軍駐留に起因する諸問題の解決策について考え、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
	13	①授業テーマ 危機管理のための民間からの協力確保の重要性 ②授業概要 危機管理のための軍民協力について、法的枠組みなどの考え方を学習し、民間からの協力をどのように確保するか、説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、民間からの協力確保の重要性について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。危機管理のために民間からの協力をどのように確保すべきか、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
	14	①授業テーマ 危機管理システムについて ②授業概要 政府の危機管理システムについて、法的枠組みなどの考え方を学習し、現状と課題について説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、政府の危機管理システムについて考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。政府の危機管理システムの課題と解決策について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
	15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 国際環境と防衛上の課題の変化に対応して日本国憲法の下で行われてきた防衛法制上のイノベーションの生成と普及の過程を振り返り、防衛法制の展開の意義と概要を説明できるようにする。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 関連する資料を読み、防衛法制の展開と残された課題について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 関連する資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。ファイルに蓄積された配布資料・講義ノート・課題と学習の記録を確認して、学習の成果を振り返る。関連科目を通じて修得した知見を総合しながら、我が国の平和国家としての歩み及び国際社会における主要なプレーヤーの地位確保という二つの目標と防衛法制という目的達成手段の関係についての自分の考えを振り返りまとめみる。防衛法制を履修した者としての今後の社会的責任に思いを馳せて、爾後の学習計画を検討する。
関連科目		国家と法（RMGT1141）、立憲主義と統治（RMGT1312）、行政法と行政過程Ⅰ（RMGT2321）、行政法と行政過程Ⅱ（RMGT2322）、行政法と行政過程Ⅲ

	(RMGT2323)、地方自治と法 (RMGT2361)、災害と法 (RMGT3401)、国民保護 (RMGT3522)、国際法 (RMGT3451)、国際人道法 (RMGT3453)、安全保障論 2 (RMGT3554)、防衛政策 (RMGT3557)、テロ対策論 (RMGT3528)、海上保安学 (RMGT3532)、海外安全対策 (RMGT3359)、国際協力論 (RMGT3560)
教科書	事前及び事後にポータルサイト経由で資料を配布する。
参考書・参考URL	田村重信編著『新・防衛法制』内外出版株式会社, 2018年, ISBN978-4-905285-92-2 防衛省『防衛白書の検索』 http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho_web/ 総務省『法令データ提供システム』 http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idexsearch.cgi 外務省『条約データ検索』 http://www3.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/ 国立国会図書館『日本法令索引』 http://hourei.ndl.go.jp/SearchSys/index.jsp 国立国会図書館『国会会議録検索システム』 http://kokkai.ndl.go.jp/ 内外出版『防衛実務小六法』内外出版株式会社, 各年, ISBN978-4-905285-84-7 (三軒茶屋キャンパス図書館請求記号 3 9 3 . 2 1 B 6 2) 朝雲新聞社『防衛ハンドブック』朝雲新聞社, 各年, ISBN978-4750920399 (三軒茶屋キャンパス図書館請求記号 3 9 2 . 1 0 7 6 A 8 1) 法令用語研究会編『法律用語辞典 第4版』有斐閣、2012年, ISBN978-4641000285 法制執務擁護研究会『条文の読み方』有斐閣、2012年, ISBN978-4641125544 その他は配布資料において適宜指示する。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント 1 0 % : パブリックセキュリティ 2 0 % : グローバルセキュリティ 6 5 % : 情報セキュリティ 5 % ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学 5 0 % : 法学 5 0 %

